

## ■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から分かることは以下の通り。国語では、文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付けて意見文を書くことに苦手意識がある。算数では、東京都の平均正答率よりも全問上の数字であったが、小数の加法減法と四捨五入して概数で表すことに苦手意識がある。全体的には平均点も高いと言えるが、与えられた情報をどのように活用するかについては課題が見られる。

## ■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○児童が「主体的に」「学び方を選びながら」自己解決するための時間を十分に確保したい。また、自らの成果に更なる課題や疑問をもち、内容を深めようとする学習スタイルを学ばせる必要がある。  
○児童の発達段階に見合った、デジタルを活用した「身に付けさせたい力」を系統立てて指導できるように、これからは教科横断的に、指導の工夫を重ねる必要がある。

## ■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○児童の主体的な学びを促す「板橋区授業スタンダードS」に基づき、授業革新推進の視点を取り入れる。児童が、自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を更に自己選択、自己決定し、学びを自己調整しながら進めることができるよう授業実践を深めていく。学習指導要領の趣旨を踏まえて基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図るとともに、言語能力、問題解決能力などの育成を通して読み解く力の育成を行う。また、令和6年度から東京都教育委員会及び板橋区教育委員会の研究指定校として取組む「デジタルを活用したこれからの学び」を推進し、本校の研究内容を深めていく。

## ■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

## 視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

○各教科等の授業において、めあてや学習のゴール、ルーブリック等を明確にし、どのようにゴールへたどり着くことができるか、考察や分析、情報収集や整理等を繰り返し、トライアンドエラーの学びを推進する。

## 視点2

ICT環境の適切な維持と活用  
個別最適な学び・協働的な学びの実現

○ドリルソフト等の個に応じた学習や調査活動、表現・製作、発表や話し合い、共同製作、インターネットを活用した学習、家庭学習での個別学習などを通して、個別最適な学びと協働的な学びを実現し、情報活用能力を含む資質・能力を育成する。

## 視点3

総合的な学習の時間との連携

○地域学習や外部人材なども積極的に取り入れながら、地域全体を学びのキャンパスにする主体的・協働的な学習を展開する。

## ■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

## 保幼小接続・小中一貫教育の推進

○イエナプランに則り、学びのエリアにおける指導計画を参考にしながら出前授業及び交流授業の実践、担当コーディネーターを中心に学校の実態に合った指導計画を作成する。またiCSや学校支援地域本部と連携し、地域人材や資源を効果的に活用しながら郷土愛の育成を図る。

## 豊かな心と健やかな体の育成

○MIRAIの“Inclusion”“Relation”を基軸として、認め合って生きる「チカラ」、つながり助け合う「チカラ」の深まる学校をつくる。  
○児童が互いの人格を尊重し、思いやりの心をもって、他の人と関わるができるよう、教職員一人ひとりが人権尊重の理念を十分理解するとともに、道徳の授業とも関連付けて、人権教育を組織的、計画的にすすめる。

## 多様な教育的ニーズへの対応

○校内の組織における特別支援教育コーディネーターを4名配置し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回心理士等を活用し、多様な児童のニーズに応えることができるようにする。また、学年や学級間での児童理解を深めるために、担任同士との交換授業を行う。